

妻籠宿

町並み保存運動

明治になり鉄道や道路が木曾川沿いに造られ、宿場としての機能を失った妻籠宿は衰退の一途をたどり、やがて昭和四十年代になり集落保存と景観が修復され、妻籠宿の町並みが見直されました。
妻籠の人たちは町並みを守るために家や土地を売らない、貸さない、こわさないを中心とする住民憲章をつくり、ここで生活しながら、江戸時代の町並みという貴重な財産を後世に伝えています。

延命地蔵

文化10年(1813年)、光徳寺住職・中外和尚が、地藏尊像の浮かび上がっている岩を関川(あらさきがわ)から運んできて安置したものです。

石仏「寒山拾得」像

国内唯一とされる、石仏「寒山拾得」像。石に掘られた双体像は他に類例がない。

光徳寺 こうとくじ

石垣を築き、白壁をめぐらせた気品ある寺で、明治9年(1900年)に開山されたと言われています。



石仏「寒山拾得」像

記念物 ぎんもくせい

氏氏の庭木として、代々愛された巨木です。(県宝)

つまごしゆくほんじん 妻籠宿本陣 (南木曾町博物館)

妻籠宿本陣には島崎氏が任命され、明治に至るまで本陣、庄屋を兼ね務めました。島崎藤村の母の生家で、次兄広助が養子にきています。平成7年4月に復原されました。



くちどめはんしよあと 口留番所跡

17世紀半ばまで関所が置かれていました。

崖岩 こいいわ

大きな鯉の形をした崖で、山

車両通行止め: 12/10~3/19
歩行者通行止め: 1/6~3/19

寺下の町並み

日本で最初に宿場保存事業が行われた寺下地区は、妻籠宿保存の原点とも言える町並みです。

かみさがや 上嶋織屋

昭和44年の解体復元によって18世紀中期の木賃宿(きちんやど)であることがわかりました。

妻籠町並み交流センター

(公財) 妻籠を愛する会 コインロッカー

和智荳神社

ますがたのあと 杵形の跡

高札場 こうさつば

今日でいう「官報掲示板」で、幕府が庶民に対し、禁制や法度等を示したものです。



至南木曾駅 (三留野宿)

くまがいけりゅうた 熊谷家住宅
19世紀初頭に建てられた長屋の一部。左右の半分ずつが一軒の家として使用されていました。

歩行者迂回路

国道19号

車両迂回路



凡例

宿	旅館・民宿	品	お土産・木工製品
味	味わい所	他	その他
トイレ	トイレ	バス停	バス停
中山道	中山道		

10:00~16:00 車両進入禁止

日本文学史に大いに業績を残した文字者
しまぎきとうそん
島崎藤村